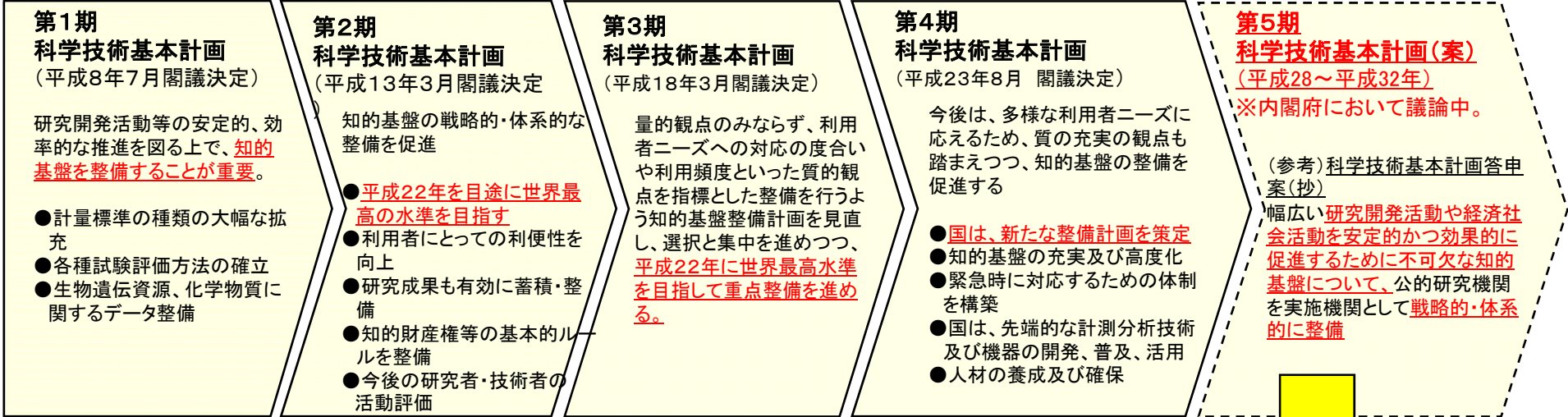


【参考資料4】「科学技術基本計画」と「知的基盤整備計画（経済産業省）」の時系列関係

科学技術基本計画における知的基盤について



第5期科学技術基本計画を踏まえ、第2期知的基盤整備計画の着実な実施と取組の強化を図る

知的基盤整備計画(経産省)

第1期 知的基盤整備計画
(平成13～平成22年)

平成22年を目標に欧米に匹敵する世界最高水準の知的基盤の整備を実施。

- 計量標準: 物理標準297種類、標準物質296種類の整備(米国: 物理標準600、標準物質400)
- 地質情報: 20万分の1地質図幅の全国カバー
- 化学物質安全管理: 化学物質管理法等対象物質5,415物質のハザードデータベースの整備(米国10,355物質)
- 生活・安全: 人間特性DB: 寸法・形態43,500人、動態・感覚3,900データ、製品事故DB: 27,463件
- 生物遺伝資源情報: 微生物64,889株
- 材料: 約29万種類のガラスに関する約84万件の物性・構造値データの収集
ファインセラミックス試験評価方法のISO提案

第2期 知的基盤整備計画
(平成23～平成32年)

利用者ニーズに応えるための利用促進方策と一体となった知的基盤の整備を実施。

- 計量標準ユーザーニーズを踏まえた整備計画
- 微生物遺伝資源整備の優先付け、産業有用な情報付加
- 地質情報
国土基礎情報としての整備